

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

●第37回● メリテール結婚!

先日何気なくRinのHPを見ていたら写真がいっぱい貼ってあるブログが目に入ったのでよく見てみると、何とメリテールの結婚式（正確に言うと結婚前、式は後日とのこと）の写真であった。え！っと思つてよく見てみると、えらく澄ました



写真が貼つてある。さっそくご紹介しよう。

台湾にて、とのコメントがあるの、おそらく相手は台湾の女性なのだろう。相手の名前やプロフィールについては一切書かれていないので、これ以上の情報はない。何枚か写真を紹介しよう。（白黒になるので映りがどうなるか不安。RinのHPを見ればブログで紹介



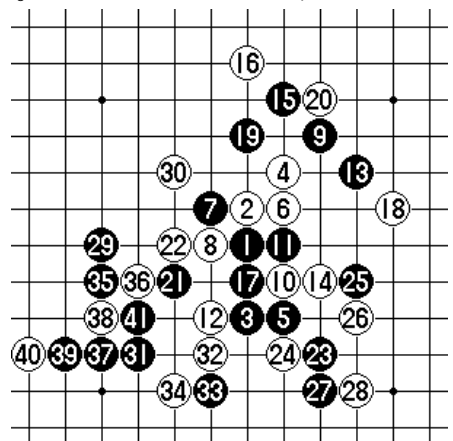
介されているのでぜひそちらをご覧ください）

19歳で世界チャンピオンになったので、まだまだ若いという気でしたのだが、いつの間にか彼もアラフォー世代に近づきつつある。今彼は幸せの絶頂なのだろう。もし今回の世界戦で中村ーメリテール戦が実現したとしても、愛の力で勝つてしまうのではないだろうか（それともメロメロで勝負にならないか）

久しぶりに彼の局を見たくなつたが、最近の対局情報は入手していない。なので、古い局で恐縮だが、世界戦での対局を紹介してみよう。

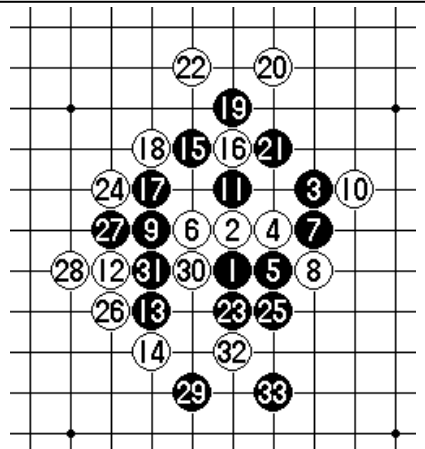
●第7回世界選手権（京都）

メリテール対奈良戦より
瑞星稲妻での流行形（当時ではもう時代遅れ？）が
らの一戦となった。黒31が
メリテールムーブだが、こう
いった掴みどころのない手
が打て、その評価が正確に



できるという所が日本選手と「絶対音感」が違う点だろう。腰が重い奈良さん相手にあつという間に勝つてしまうあたりが、もう次元が違うと言わざるを得ない。日本人は「きれいに勝つ」ということを求めたがるが、彼らにとつては「難しく勝つ」ということの方が美しいのだろう。価値観の違いを感じさせる一局だった。

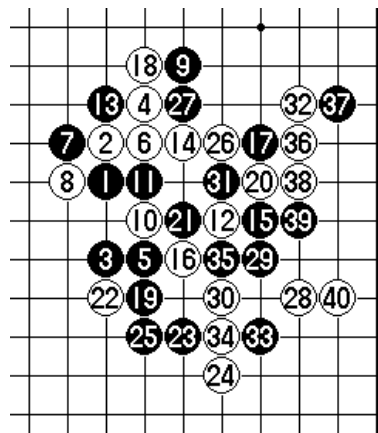
●第7回世界選手権（京都）
メリテール対スシユコフ戦
より
人生の絶頂は今かもしれ



ないが、連珠の成績での絶頂だったのもこの時である。京都大会で11戦全勝の離れ技を成し遂げたからだ。ロシアの強豪スシュコフに対し、難局の疎星で堂々黒勝ちしている。もともとこの局は、前日の研究で勝ちを見つけたと後に語っていることから、運も味方につけたのだろう。

●第9回世界選手権

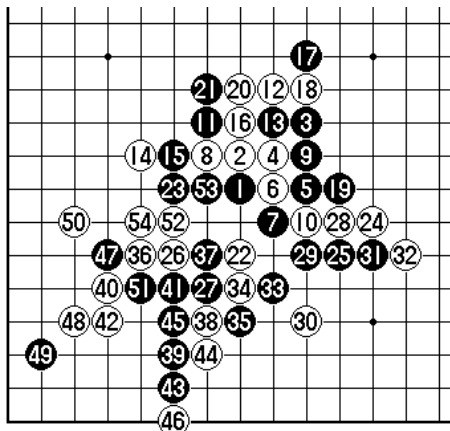
タイムラ対メリテール戦より
彼が一番最近出場した05年の世界戦から。その前の大会で世界一になったタイムラに対し、これもまた



あつという間に勝っている。彼はもともと白が好きと言っていたが、白番で攻めることに一番快感を感じているのだろう。しかし、攻めるためにはその前に絶妙の防ぎをしなければならず、白20、22のコンビネーションが相手を見切った防ぎで攻守逆転してしまった。

●第9回世界選手権

岡部対メリテール戦より
同じ年の岡部戦も紹介しておこう。岡部君は思い出さたくない棋譜だろうが、これも彼の絶妙の白番の打ち方が光る。白40、42の

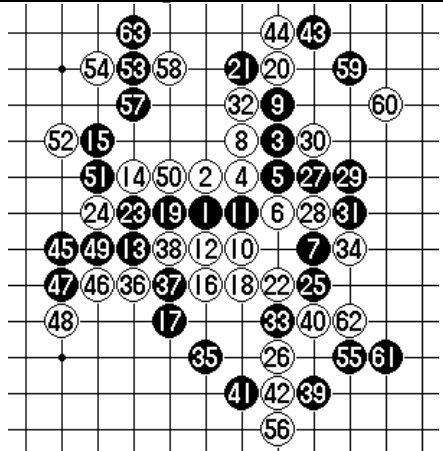


打ち方などは非常に参考になる。結局、カールソンに不覚を喫したものの、きつちり優勝を決めている。

「世界戦に優勝しても、ナカムラがいけない世界戦で勝つても真の世界一ではない」という気持ちが出てきて、不思議でない。その気持ち

が天に通じたのか、99年に日本において中村名人（当時）との六番戦が行われた。その中から一局ご紹介しよう。

●メリテール対中村六番戦より（第6局）



毎局印象に残っているが、最終局も強く印象に残っている。何よりも黒15というある意味防ぎ一方の手を打つても黒が打てるかと判断している大局観がまったく違う。途中、中村名人に勝ちの局面もあったのだが、疲労困憊で思い切った攻めることができず、ついには満局になった。

夫婦でチーム世界戦にも来てもらえれば、きっと歓迎されるであろう。来年でなくても、いつの日にか会えることを願っている。